

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	高校生世代を含むこどもの食支援サポート事業
2 実施期間	2023年7月～2024年2月
3 事業内容	<p>①具体的な実施内容（対象者や実施場所、何をいつ実施したかなど）</p> <p>【取組①】 対象者：那覇市に所在する高校や居場所等3か所＋一度のみ1か所 実施場所：県立真和志高校サポートルーム 県立那覇商業定時制高校サポートルーム 若年者居場所支援「ユースセンターアシタネ」那覇市松川 実施期間：2023年7月～2024年2月 詳細：那覇市など近隣に所在する公立高等学校及び学生など若年者を支援する居場所等において、栄養価の高い食品や庫ユニティづくりに必要な食品を購入し、食事が取れていない、または不足している生徒や学生などへいつでも気軽に提供を行う。</p> <p>【取組②】 対象者：子どもがいる那覇市に住む家庭 実施場所：那覇市パーソナルサポートセンター 那覇市役所子育て支援課 那覇市に所在する児童館（国場・若狭） 実施期間：2023年7月～2023年8月 詳細：主食であるお米3kg（1袋1000円程度）を購入し、那覇市に在中している子どもがいる家庭へ実施場所を通して配布する。</p> <p>②事業の周知方法</p> <p>【取組①】 沖縄県立高校の居場所づくり運営支援事業を受けているりゅうせきフロンラインが行う学校内での居場所事業の中から、協議により2校と、特定非営利活動法人沖縄青少年自立援助センターkukuluが行う引きこもりの生徒などを預かる居場所「ユースセンター・アシタネ」において利用者向けに食品の利用案内を行ってもらう。</p> <p>【取組②】 困窮者自立支援窓口や子どものいる家庭の相談窓口へ相談に来た那覇市に所在する子供がいる家庭や、児童館を利用する子ども達を通じて家庭へのお米の配布を行ってもらう。</p>

<p>4 今回の達成目標とその確認方法</p>	<p>① 今回の達成目標（事業実施年度内に達成したい目標）</p> <p>【取組①】 生徒や学生 600 名（延べ）に食品を配布する。 （内訳） 1 か所使用者 25 名～30 名×3 か所=100 名／月（延べ） ※過去の事業実績からの計測</p> <p>【取組②】 那覇市に在中する子どもに対し一人 1 kgのお米を 2 か月で 482 袋を配布する。 （根拠）2022 年 7 月～8 月の那覇市在の 18 歳以下の子ども依頼数 合計 446 名</p> <p>② 確認方法（達成目標が達成したかどのように確認（測定）するのか）</p> <p>【取組①】 月次アンケート 【取組②】 お米布数</p>
<p>5 上記 4 の目標の達成度</p>	<p>【取組①】 食品配布人数 2,583 人（延べ） 430.5 %達成（計画 600 名）</p> <p>【取組②】 お米の配布数 630 袋 130.7 %達成（計画 482 袋）</p>
<p>6 評価</p>	<p>① 良かった点、工夫したこと 連携先との協力について 当該事業では、連携先との事前に覚書を取り交わし、事業理解と協力体制を整えた上で始動しました。この取り組みにより、毎月の WEB アンケートフォームからの報告に関しても、円滑な事業展開を実現することができました。</p> <p>食品ニーズの把握と有効利用に関する取り組み 毎月実施されたアンケート調査の結果をもとに、食品の需要を的確に把握することができました。また、調理を希望する団体には食材の購入を行ってもらった。これにより、食品の無駄を最小限に抑え、有効利用を実現することができました。</p> <p>食品ロス削減の取り組み 県内のパンメーカーから余剰となったパンを低価格で購入し、提供することで、食品ロスの問題に対する認識を高める契機となりました。この取り組みを通じて、生徒たちが食品ロス問題を身近に感じ、フードバンク活動への理解が深まりました。</p>

6 評価	<p>以上の取り組みにより、連携先との円滑な協力体制のもと、食品の需要を把握し、有効に食品を活用する取り組みが実現できました。</p> <p>その他</p> <p>りゅうせきフロンラインが県内高等学校居場所事業を行っている別の1校から食支援協力申請があった。本事業からの予算確保が難しいため、通常連携先となっている1校から食品を分けてもらい、さらに当団体から食品を届け、2023年9月に校内での初めての食支援プログラムとして「食品ロス削減」もテーマの一つに加えて開催し、生徒や先生方への理解や食支援の必要性や認知が広がったとの報告を受けました。</p> <p>お米の購入と配布に関する報告</p> <p>当初の計画では、夏休み期間中にお米の購入と配布を実施する予定でしたが、2023年7月末に発生した台風の影響により、計画が遅れ、8月末に発注を行い、9月上旬に配布を実施いたしました。</p> <p>発注先は、これまでに協力関係を築いていた食糧会社に依頼しました。価格の相談や配達などにおいても、円滑な対応を得ることができました。結果として、計画よりも多くのお米を提供することができました。</p> <p>以上の経過から、遅れが生じましたが、発注と配布の手続きは順調に進み無事事業を終了することができました。</p>
	<p>② 苦労したこと、改善点、今後に活かしたいこと</p> <p>本事業において、使用する食品は主にECサイトから購入していました。しかし、物価高騰の影響により毎月のように価格が上昇し、一部の商品では送料が必須となるなど、予算に課題が生じました。その結果、希望食品の変更や数量の削減を余儀なくされた。</p> <p>初期段階では地元の小売店での食品調達を検討しておりましたが、事業担当者が通常業務に加えて食品の調達や配送を行うことは困難であり、また、実施場所の居場所においても同様の状況が確認された。</p> <p>さらに、他の団体への配送時間調整やコミュニケーションの困難さなども課題となり、注文した食品が届けられずキャンセルに至る事例も一度発生しましたが、再度の注文を行い対応できたが、食品の到着スケジュールの大幅な変動が起きてしまった。</p>

7 事業の効果・今後の展開（継続、内容変更、終了など）

① 事業の効果（対象や地域、社会にどう貢献したかなど）

【事業①】

月次アンケート回答より一部抜粋

※別添：連携実施居場所からの報告書

- ・継続して持ち帰ることができるようになった生徒が、お昼時間に暗い表情をすることが少なくなりました。
- ・カップラーメンやお菓子を食べていた中学生が、手料理を食べるようになった。普段来所しない大学生が、手料理の日には、ほぼ毎回来所するようになった。
- ・食糧支援開始当初は支援されることを遠慮していた生徒が、食品を受け取ったことにより、家庭の事情なども話すことも多くなってきた。
- ・一緒に食べるだけでも利用者との交流は生まれていたが、一緒に作ることでより多くの交流が生まれている。
- ・偏ったダイエットをしていた女生徒に、魚肉ソーセージを提供したところ、「意外に美味しい！」と喜んで食べるようになった。タンパク質を取ることを意識し、バランスを考えて食事をするようになった。
- ・台風の影響もあり、運営している居場所を避難所のように開所することがあった。その際、購入いただいていたカップラーメンや飲み物を提供したところ「助かる」といった声が多くあった。
- ・昼食を持参しない生徒が、遠慮なく食品を受け取ったり、食べてくれるようになった。

【事業②】

国場・若狭児童館を利用している児童生徒に対し、1人3kgのお米を持ち帰りしてもらったことで、利用者の保護者からは、物価高騰の中、主食のお米をいただけるのはとてもありがたいとのメッセージがあり、特に子供がいる家庭への家計負担軽減につながった。

② 今後の展開

高校内居場所での食品提供事業の継続に関する検討

当該事業は、高校内の居場所において食品を提供する取り組みであり、今後もその継続を希望しております。しかしながら、居場所自体が沖縄県のプロポーザル事業の一環として位置付けられており、事業事業の受託団体が未定であるため、今後の協議が難航している。また、事業の資金調達も課題である。

<p>7 事業の効果・今後の展開（継続、内容変更、終了など）</p>	<p>他にも、居場所から寄せられた意見には、本当に食品が必要な生徒へのアプローチが不十分であるとの課題もあった。</p> <p>今後は、事業の受託団体が決定され次第、資金調達に関しても助成金や協力者を検討し、引き続き事業の継続に向けて協議を進め、本当に食品が必要な生徒へのアプローチ方法を改善し、より効果的な支援を関係者と協力しながら、この課題に取り組んでいきたい。</p> <p>また今後、食品ロス削減がより促進され、食品の寄贈が減少することが予想される。このため、購入食品の頻度が増加する見込みである。これに伴い活動継続のためには食品購入にかかる費用に対する助成金の活用が重要であり、社会に必要な事業展開を行うためにも、助成金を活かし、効果的な取り組みを実施していくが、地元の食品寄付協力企業開拓も引き続き継続で行っていききたい。</p> <p>また、昨年 11 月からスタートした当事務所を拠点に行っているフードパントリー事業についても、さらなる展開を考察中である。</p> <p>具体的には、以下の取り組みである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フードパントリーの研修会や勉強会の開催を通じたスキルアップおよびノウハウの共有。 2. 実施場所や地域の拡大を目指し、より多くの人々に支援を届けるための努力。 3. 持続可能な仕組みづくり。 <p>今後も関係者と協力しながら、食品ロス削減およびフードバンク事業の展開に努めていきたい。</p>
<p>8 その他の意見、感想など</p>	<p>沖縄県子ども未来政策課が行う高等学校内居場所事業については2年間継続で行ってきたので、開催地域を広げながら今年度も事業実施を行い、効果の実証を行いたい。</p>
<p>9 事業実施に関して協力（連携）した行政機関・他団体の有無。該当する箇所に<input checked="" type="checkbox"/>等を記入してください。）、協力の内容について記入してください。</p> <p>行政の協力（<input checked="" type="checkbox"/>情報共有、ヒアリング <input type="checkbox"/>企画立案に協力 <input type="checkbox"/>告知の協力 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>他団体の協力（<input checked="" type="checkbox"/>情報共有、ヒアリング <input checked="" type="checkbox"/>企画立案に協力 <input checked="" type="checkbox"/>告知の協力 <input type="checkbox"/>資金提供 <input checked="" type="checkbox"/>その他（支援者への繋ぎ ）</p> <p>行政や他団体への今後の連携についての期待・要望など</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>沖縄県の関連部署へ高校生の居場所での食品提供の事業化を要望し、また事業実施団体が確定し、今後の食品提供の希望があれば企画立案から協働していききたい。</p> </div>	